

令和6年度



「きみのやる気を応援します！」

四国大学学生GPプロジェクト活動報告書

四国大学学生プロジェクト支援事業

主旨

四国大学学生プロジェクト支援事業とは、四国大学（大学院・短期大学部を含む）において、学生が自主的に取り組む教育研究、課外活動及び社会・地域貢献などに関わるプロジェクトを支援し、学生の創造性や自主性を高め、人間的成長を促すことを目的とした支援事業です。
※GPとは「Good Practice（優れた取り組み）」の略です。

応募資格と条件

本学（四国大学大学院、四国大学及び四国大学短期大学部）学生の企画であり、グループで実施することを条件としています。選定された企画を実施後、その成果を報告書にまとめ、報告会で発表していただきます。また、同一企画の継続申請は原則として4年までとし、学部・学科・学年を越えた企画も歓迎です。

応募内容

- ①「教育・研究」 学習成果を上げるための創意工夫、専門性に基づくもの。または、専門にとられない独創的な研究に関するもの
- ②「地域貢献」 地域への貢献や地域との交流を目的としたもの
- ③「100周年記念事業」
学園の創立100周年に関連し、大学の継続的な発展、ブランディングなどに関連するもの
- ④「その他」 大学関連グッズの開発等、大学ブランド力アップに貢献し、本事業の企画・趣旨に合致すると思われるもの
または、①～③以外で本事業の主旨に合致するもの



令和6年度 学生GP認証式

令和6年度学生GP採択プロジェクト

四国大学学生プロジェクト支援事業に、令和6年度も多くのプロジェクトから応募があり、審査を経て選考した結果14件のプロジェクトが採択されました。各プロジェクトが学生中心の様々な発想と行動力を発揮し、活動を完遂しました。

No	プロジェクト名	代表者			グループ人数	指導教員
		所属	学年	氏名		
1	子ども食堂 TAG-RI-BA活動 ゴールデンZクラブ	児童学 学科	3	今津麟太郎	46	濱口恒一郎
2	生成AIを用いた四国大学チャットボットの開発	メディア情報学 学科	4	BHUJEL YABINDRA	4	細川 康輝
3	次世代に繋ぐ文化財～北島町の絵師「大島千々九斎」の魅力～	日本文学 学科	3	寺澤 花帆	12	須藤 茂樹
4	第11回木頭ゆずちぎり隊～木頭防災講座～	健康栄養学 学科	3	阿部 果甫	14	マーク・フェネリー
5	笑輪～笑顔の連鎖でつながる書道～	書道文化学 学科	3	橘高 彩名	4	渡邊 周一
6	シケスリー “グローバル交流会” つながり・つづけるために～	ビジネス・コミュニケーション科	3	TRAN QUOC DAT	23	元木 佳江
7	次世代ナイチンゲールプロジェクトⅢ ～Project F～	看護学 学科	4	松本実弥美	19	山口 豪
8	100年の歩みと共に 四国大学記念プロジェクト	経営情報学 学科	3	秋山 紗花	22	鈴鹿 剛
9	僕らの図書館 テニトル実行企画	日本文学 学科	2	平田 彩花	13	杉山 悦子
10	Growing a sense of internationality	国際文化学 学科	3	香川 堇	14	西 記代子
11	蒲公英～たんぽぽ～ ～徳島の地から新時代の書を～	書道文化学 学科	2	小林 美紅	8	渡邊 周一
12	しこくカフェ（オレンジカフェ）	看護学 学科	3	岡田 乃々	8	笹賀美代子
13	なると探検隊～世界にはなて魅力発信～	経営情報学 学科	2	荒井 菜那	8	萩原 八郎
14	Tina	書道文化学 学科	2	小泉由里子	5	城本 春佳

※令和6年度時の学年を記載

子ども食堂 TAG-RI-BA活動 ゴールデンZクラブ

概要 近年、「子ども食堂」に焦点が当てられている。そこで、私たちは、仲間とともに次の3つのポイントを押さえ課題解決に取り組む。

- ①全国各地で「子ども食堂」が普及している。
- ②コロナによる教育現場・保育現場での児童との交流や体験活動への制限が解除されてきた。
- ③主体的な奉仕の精神を学ぶ必要がある。

会員数は5月現在1～4年生合わせて57名となった。児童学科の学生が多く所属しているため、普段の大学生活の中でも子どもと関わる学びを通して、大学の掲げる「地域貢献」をめざすと共に、小学校・幼稚園教諭や保育士を目指しての社会奉仕体験活動を増やし、将来必要な「自己の肉体的な成長」につなげたい。



主な活動日程	2024年	4月21日	鳴門市大麻町でハウススダチの収穫体験ボランティア
		4月28日	徳島市ふれあい健康館「宙（そら）」で子ども食堂のボランティア
		5月17日	小さな親切運動 日本列島クリーン大作戦
		5月26日	徳島市ふれあい健康館「宙（そら）」で子ども食堂のボランティア
		6月15日	県教育委員会人権課の方々と県内4大学のボランティア団体の代表者との意見交流（あったかハート）
		6月30日	徳島市ふれあい健康館「宙（そら）」で子ども食堂のボランティア
		7月20日	キャンドルナイト「光の小道」展開ボランティア
		10月12日	鳴門市立図書館で児童画展審査のボランティア
		10月 9日	鳴門市立図書館での読み聞かせ会
		10月20日	上勝町鈴木農園でユコウ収穫体験ボランティア
		10月27日	上勝町鈴木農園でユコウ収穫体験ボランティア
		11月21日	鳴門市立図書館で児童画展展示のボランティア
		11月25日	鳴門市立図書館で児童画展展示作品撤収・片付けのボランティア
		12月14日	勝浦町でみかん収穫体験ボランティア
		12月25日	四国大学附属認定こども園での大掃除
	2025年	1月11日	鳴門市立図書館でゾントクラブバザー補助ボランティア

活動結果 計画どおりの活動に参加できている。特に、子ども食堂では、児童や保護者の方と食事だけではなくいろんな場面でコミュニケーションを図ることができた。農産物の収穫体験ボランティアでは、ユコウ、スダチの収穫体験ボランティアは2回活動ができた。ミカンの収穫体験ボランティアは1回の活動となった。自然がもたらす影響について興味・関心が深まった。3年生は、本会の代表学年として様々な活動に取り組んだ。また、2年生も活発に参加した。しかし、後任者の見通しが立たず、鳴門ゾントクラブとの連携は本年度をもって終了するので、ゾントクラブと連携した活動は休止することになる。



ゴールデンZ独自のボランティアに参加する中で、地域の人やその土地・場所でしかできない体験をすることができ、やりがいを感じている。年間の活動実績が多いのは、四国大学ゴールデンZクラブの強みだと思う。今しかできない経験をすることができた。

振り返り 毎月のボランティア活動について例会や、アドバイザーのポータルによる連絡を行っているが、授業の隙間を縫って例会の時間を確保しているため例会



参加率の、学年・学科によるバラつき、またボランティア参加学生の固定化が挙げられる。他団体への活動を行えないかというお声掛けをいただいていたが、日程が学生の予定と合わないなどもあった。こういった課題を解決するために、会長・アドバイザーだけでなく、理事会全体でボランティアに関する話し合いを深めていく必要があると感じた。また、役員も学年が固まってしまうのではなく、2、3年が中心となることで各学年の会員が参加しやすい雰囲気作りが必要である。あと、どうしても各ボランティアの日程・参加会員などについて、先生に頼りきってしまっている部分もあるので、自分たちで管理できる体制の確立が求められている。

生成AIを用いた四国大学チャットボットの開発

概要 本プロジェクトは、志願者・在学生向けの情報、手続き案内などを自然な対話で提供するチャットボット開発である。
学内の情報を学習した生成AIを作成し、利便性の高いチャットインターフェースで専用のスマートフォンアプリとして実装する。



主な活動日程 2024年11月 モデルの正答率向上に向けた検討および実施
12月 複数のパターンについて適するモデルを選定
2025年 1月 アプリケーションとモデルの統合作業

活動結果 70%の正答率を持つチャットボットのモデルを作成できた。
しかし、アプリケーションに統合した際に容量の問題が発生し、正答率が低下した。
大学のチャットボットはルールベースであるが、本プロジェクトは何かを応答しようとするチャットボットである。

振り返り 90%に近いチャットボットのモデルを作成する必要があったが70%となってしまった。アプリケーションとの統合に成功したが、モデルサイズが大容量となったため、低容量で正解率の高いモデルを検討することが求められる。このためには、モデル作成の段階からの見直しが必要である。今後は大容量の問題を解決し、レスポンスの高いチャットボットの制作に取り組むことで実用的なアプリケーション開発に取り組む。

次世代に繋ぐ文化財～北島町の絵師「大島千々九斎」の魅力～

概要 本プロジェクトでは、大島千々九斎についての目録を来年度に出版する予定であるため、大島千々九斎の調査研究・史料選別などの活動を行う。この活動を通して、大島千々九斎を始めとする数々の文化財の魅力を一般の方々に伝えたい。

主な活動日程 2024年 7月31日 北島町立図書館所蔵大島千々九斎の史料箱④の調査
8月 7日 北島町立図書館所蔵大島千々九斎の史料箱④の調査
8月21日 北島町立図書館所蔵大島千々九斎の史料箱④の調査
8月28日 北島町立図書館所蔵大島千々九斎の史料箱④の調査
9月 4日 北島町立図書館所蔵大島千々九斎の史料箱④の調査
9月11日 北島町文化祭展示の作品選出ならびに打ち合わせ
9月18日 昨年度の展示作品の撤収作業・大島千々九斎の史料箱④の調査
10月 9日 文化祭展示キャプション作成・展示作品の撮影
10月22日 文化祭展示準備・パンフレット作成・キャプション作成
10月26日 北島町文化祭参加（見学・解説）
10月27日 北島町文化祭参加（見学・解説）



活動結果 北島町立図書館の大島千々九齋の絵画資料について、法量を図り題目を付けることなどをする整理・記録といった保存活動を行った。今回の調査では10個程ある資料の保存箱の内一つ分の整理を行い、伊勢物語や源氏物語の下絵など、さまざまなジャンルの絵画資料を取り扱った。これにより大島千々九齋の活動の幅が確認できた。



また、例年行っている北島町の文化祭での展示では、展示資料の選出やキャプション作成など、実際に展示作業をすることによって、学芸員や博物館の役割である展示活動について理解を深めることが出来た。また、この展示を通して私たちの活動についてや、北島町に残すべき資料があるということ、見学にきた人々に伝えることができたように思う。

振り返り メンバー同士の協力や図書館ならびに町職員の皆さまの力添えもあり、概ね当初の計画どおりプロジェクトを実施できていると思われる。

主な反省点としては、主に夏休み期間に活動したため帰省した学生の参加頻度が少なくなってしまったこと、学生の時間割の兼ね合いでどうしても参加できない場合があったことなど、日程調整の面が挙げられる。また、メンバー同士の連絡が滞ったことにより活動に支障がでてしまったことも大きな反省点である。

町民文化祭の展示準備は、おおむね予定どおりに進めることができた。本活動では、地域住民の方に地域に文化財があり、それを地域や地域住民が守っていく必要があるということや、北島町の絵師である大島千々九齋についての認知度を高める目的を有しているが、依然として広まっておらず、認知度上昇の余地がまだまだあると推察される。そのため今後はさらに外向きに大島千々九齋の存在を発信しつつ活動していく必要があり、その大きな一歩として準備を進めている図録出版を来年度の目標として掲げたい。

第11回木頭ゆずちぎり隊～木頭防災講座～

概要 過疎高齢地域のゆず農家支援、収穫後の取り残しのゆずを狙って山から里に降りてくる鳥獣被害対策を目的とし、また、空き時間に地元の人、学生と急に地震が来た時のため避難訓練や防災講座を設け、防災意識を向上させ地域の方との親睦を深めることのできるプロジェクトを企画した。



主な活動日程 2024年 8月30日 木頭の方とZoomで話し合い
10月 4日 木頭の方と支援室で直接話し合い
10月 6日 応神地区の方と避難訓練
10月17日 非常食試作・試食
11月30日 木頭の方と避難訓練・防災講座
12月 1日 木頭のゆずちぎり

活動結果 本活動を通して参加した学生にとっては、ボランティア活動中に万が一地震が起きてしまった際に、どのようなことに注意して避難をすればいいか考えるきっかけとなった。また、参加した木頭地区の住人にとっては、学生と防災講座を通し、「自然災害が起きてしまった際に、家にあるもので緊急時の暮らしを送ることについて知ることができた。」という好評をいただいたことから、本活動を行ったことにより、地



域の方だけでなく学生にとっても地震のときの暮らしの在り方を考えるきっかけとなった。学生にとっては木頭の地域の方と交流をしたことはいい経験になったといえる。なぜなら、普段の暮らしでは関わることのない人たちとの出会いを経験したことは非常に貴重なため全体を通し良い体験になった。



振り返り 地域の方との連携が上手に取れていない場面があり、思っているよりも参加人数が少なかった。この反省を活かし今後は、人との連絡をよりこまめに行い、参加者を少しでも多く集められるように広報していけるようにしたいと思う。また、全体の前での説明がうまく行えず、参加者を戸惑わせてしまう場面もあったため、今後の活動では改善していけるようにしたい。そのためには、まずはボランティア活動支援室での打合せ等の連携を今よりも密に行い、リハーサル等を行うようにして改善していきたい。

今後も木頭でのゆずの収穫は毎年行っていく予定であるが避難訓練の実施に関しては未定である。しかし、例年行っている四国大学での避難訓練は来年度も支援室のメンバーで企画し行う予定であるため、そこで今回の反省を活かし活動できるようにしていきたい。また、木頭での活動においても、避難訓練を行う場合も行わない場合も、今年度の活動を活かし来年度は地域の方とさらにより良いものにできるようにしたいと思う。

笑輪～笑顔の連鎖でつながる書道～

概要 書道文化学科の3年生で構成された「笑輪」の活動を中心とするものである。書道文化学科の宣伝と共に書道パフォーマンス、書道体験、作品展示等を行い、書道の魅力を伝える。同時にメンバーの個人的成長・地域活性化にも貢献しようとするものである。

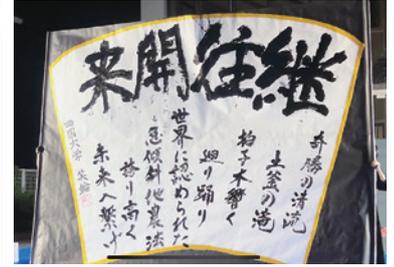
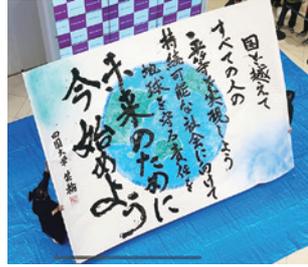
- 主な活動日程**
- 2024年 4月 7日 万代町・アクアチッタで開催されたKTC club FASTにてパフォーマンスを披露
 - 4月28日 月見ヶ丘海浜公園で開催されたこどもフェスティバルで「海」をテーマにしたパフォーマンスを披露。
 - 5月16日 サギノバレー大学の学生と国際交流。「日本」をテーマにしたパフォーマンス披露と、書道体験を実施。
 - 6月28日～7月31日
イオンモール徳島5F・あわぎんイオンプラザにて作品展「笑輪展－笑顔の連鎖でつながる書道－」を実施。パフォーマンス作品とパフォーマンス映像・各メンバーの個人作品の展示を行った。
 - 8月13日 つるぎ町一宇村で開催された「一宇夏フェス2024」でパフォーマンスを披露。パフォーマンス前には団扇の揮毫ブースも実施。
 - 9月21日 イオンモール徳島で「SDGs」をテーマにしたパフォーマンスを午前・午後の二度披露。合間にはがきに好きな文字を揮毫するワークショップを開催。
 - 10月15日 株式会社鳴門屋が新設する「鳴門屋道場」の看板揮毫を担当。看板は同月17日にオープンした道場内に掲示中。
 - 2025年 1月21日 四国大学附属西富田こども園での書写指導一回目。五歳児を対象に、筆の使い方等の基礎知識・基本点画・甲骨文字などの授業を二度実施。
 - 2月 7日 四国大学附属西富田こども園での書写指導二回目。前回に引き続き、甲骨文字や平仮名の指導・授業を二度実施。



活動結果 昨年に引き続き、書道パフォーマンス活動を中心とし、様々な活動を行うことができた。特に今年度は、パフォーマンス披露時に合わせてワークショップや即席の揮毫会を開催したり、初となる作品展の開催、看板を制作したり、パフォーマンス以外にも活動の幅を広げることができたとともに、お客さんと実際に会話する機会も多く、パフォーマンスを見ての感想や、制作した作品への感想を直接耳にし、客観的な意見を多く得ることができたと感じる。さらに、後期には、初となるこどもたちへの書写指導にも取り組んだ。5歳児を相手に、どのように説明すれば分かってもらえるのか、どんな内容なら飽きずに楽しく書道を体験して

もらえるのか、自分たちで考える良い経験ができた。当グループには、今後教育実習を控えている者や、将来的に教員を目指している者もいるため、今後の自分たちのためにもなる、有意義な活動になったと感じる。

振り返り 今年度は後半になるにつれ、メンバーのスケジュールが合わず活動頻度が低下してしまったのが反省点だと感じる。また、VR書道を行う機会が無かったのもやり残したことだと思う。今回実施した作品展は、あまりスペースがとれなかったため、次回以降はもう少し広めの会場で、作品点数を増やして実施したい。今後は、引き続き地域活性化のための書道パフォーマンスや、揮毫会、作品展など、今までの経験を活かして活動に取り組んでいきたい。



シケースリー“グローバル交流会”-つながり・つづけるために-

概要 本プロジェクトは四国大学に在籍する留学生が中心となって、異文化への好奇心とグローバル交流希望を持つ学生とともに、気軽に交流できる環境を作ることとする。そのために、日本人と留学生の距離を縮められるように文化交流活動を行うものである。

- 主な活動日程**
- 2024年 5月19日 つるぎ町イチフェスでボランティアをする（実行委員2人、当日ボランティア7人）
イチフェスとは、徳島の一宇地域の知名度向上のため、廃校となった中学校を会場に開催するイベント。
 - 6月26日 正式なメンバーを24人決める
 - 7月 1日～ 7月 8日
書道文化学科の廣田梢子さん開催書道体験イベントを応援する（15人）
 - 9月 4日～ 9月12日
四国大学社会連携推進課開催 「お遍路しながら国際交流」に参加する（10人）
 - 9月20日 四国大学社会連携推進課開催による徳島県内企業と留学生BBQ交流会の実施協力、交流を図る（15人）
 - 10月 1日 学生GP書道グループ Tina開催書道教室のイベントに参加する（5人）
 - 10月19日～10月20日
海陽町にてビーチクリーン、地域交流、観光資源調査を行う（全員）
ビーチクリーンで「環境をまもる」のメッセージを発信する。さらに、シケースリーとメンバーのSNSでの投稿を通じて、海陽町の魅力を発信する
スケジュール：
一日目：大砂海岸清掃、子ども食堂体験、DMV、海陽町立博物館見学、まぜのおかオートキャンプ場での地域交流
二日目：轟の滝、大里八幡神社秋祭り、薬王寺、道の駅日和佐見学
共催：NPOあったかいよう 協力：美波多文化共生ネットワーク「ハーモニー」
 - 10月 9日 四国大学100周年記念の撮影協力（20人）
 - 12月15日 スポーツ交流会イベントを開催する（全員）
協力団体：四国大学女子サッカー部、DISAC、東海運株式会社、BG Kids、四国大学広報課、徳島工業短期大学
 - 12月21日 徳島吉野川ライオンズクラブと上板ライオンズクラブ共催 「藍染め体験」に参加する（20人）
 - 12月22日 BG Kidsトクシマ主催 キッズゲームまつり2024に協力する
 - 12月25日 学生GP DISAC主催 クリスマスパティーイベントに参加する（20人）
 - 2025年 1月25日～ 1月26日
四国大学社会連携推進課開催 神山町の景色をつくるフィールドワーク（4人）

活動結果 地域ボランティア活動では、四国大学の留学生、日本人学生、地域住民が協力し、大砂海岸の清掃活動を

実施した。この活動を通じて、環境保護の意識を高めるとともに、「環境を守ること」の大切さを知った。さらに、地元の人々との交流を通じて、徳島の魅力を再発見する機会となった。

BBQ交流会では、県内企業と留学生の交流を促進し、企業に留学生の存在をアピールすることができた。参加した留学生は企業関係者との会話を通じて地元企業に対して関心を深めるとともに、将来の就職活動に向けた貴重な経験を得る機会となった。

スポーツ交流会では、四国大学女子サッカー部や企業の協力を得て、異文化交流を目的とした大規模なイベントを開催した。この交流会には、四国大学だけでなく、徳島大学や鳴門教育大学の学生、社会人、子どもたち、外国人など、多様な参加者が集まった。スポーツを通じて、日本人と外国人がお互いを理解し、親睦を深めることができた。また、シケースリーのメンバーも積極的に日本人学生の活動に参加し、イベントを盛り上げた。

シケースリーのInstagramリンク：<https://www.instagram.com/shikeisury.shikoku/>

振り返り ボランティアの役割分担や事前準備を徹底したことで、活動の運営はスムーズに進んだが、他のサークルと協力する際には、より多くのメンバーを集めるための事前PRが不足していた。今後は、SNS投稿や説明会の実施など、より積極的な広報活動を行う必要がある。

企業と留学生がより深く交流できるようにするため、アイスブレイクや話題提供の準備を事前に行うべきだった。次回は、グループワークや簡単なゲームを取り入れることで、より自然な交流を促したいと考えている。

また、SNSの発信頻度を増やし、活動の認知度を向上させるべきだった。イベント記録のため、今後は記録係を決め、積極的に撮影・編集を行う仕組みを整えることが重要である。

日本人学生やプロジェクトメンバー以外の留学生へのアプローチが十分ではなかった。ポスターやチラシを見ても興味を持ってもらえないことが多かったため、より直接的なアプローチ(SNSでの多くのストーリー投稿など)を強化する必要がある。

イベント後の振り返りを参加者からフィードバックとして集める機会を設けられなかったため、アンケートやインタビューを通じて、次回の改善点を明確にしたいと考えている。

次世代ナイチンゲールプロジェクトⅢ～Project F～

概要 入浴は日本人にとって身近な日常生活行動であるが、健康な若者でも出浴時に立ち眩み等の一時的な意識障害が生じる。そこで本プロジェクトは入浴における意識障害の有無と脳血流や心機能などとの関係を実験的に明らかにし、学会で発表を行う。

主な活動日程	2024年	6月25日	実験・データ取得
		7月 2日	実験・データ取得
		7月 3日	実験・データ取得
		8月 2日	実験・データ取得
		8月 5日	実験・データ取得
		9月 6日	学会発表準備
		9月 7日	学会発表
		9月28日	実験・データ取得
	2025年	2月10日	学会ポスター作製
		3月 7日	学会ポスターチェック・指導
		3月14日	学会発表準備
		3月18日	学会発表



活動結果 実際に自分たちで実験の方法を学び、文献を調べつつ実験を行い、得られたデータを適切に処理した。その結果を元に作図をして、さらに調べた文献を加えながら、研究の主張や結論を導き出した。この時点で本プロジェクトの前半部分の入浴における脳血流と心機能の関係などを完全ではないが、一部明らかにできたのではないかなと思う。

その後学会に演題をエントリーし、自分たちで会場まで行くルートや宿泊先を決め、予約し、時間通りに現地に行くこと、そして帰ることができた。



そして実際に演題を発表したときはものすごく緊張したが、自分なりのできる最大限の力を使って質疑応答もこなすことができた。

少なくとも第22回のコ・メディカル形態機能学会は看護学生の発表は私たちだけであり、他大学の学生はいても理学療法学科の学生たちであり、入浴や心臓といった日常生活行動や内臓の研究をしている学生はいなかったため、他の大学にはない四国大学独自のアピールポイントになったと思う。実際に発表後に色々な他大学の先生方や、他大学の学生さんたちが良かったことや優れている点を指摘してくれて、本当にうれしかったし、自信になった。

また、APPW2025でもポスター発表を行った。今回は解剖、生理、薬理の3学会の合同学会で幕張メッセで行ったこともあり、ポスター会場は移動すらままならないほどたくさんの研究者や学生、観衆が来ていた。こんなに多くの会場で発表することは初めてで、とても緊張し、はじめはどのように声掛けしていけばよいのかもわからなかったが、支援教員の先生に指示をもらいながらやっていると次第に慣れてきた。また、コ・メディカル形態機能学会で仲良くなった学生が応援に来てくれた。そういう様々な力があって、最後には現場の看護師の質問者の方から『この研究は臨床の私たちにとっても非常に重要なので、ぜひ続けていてください。』という激励の言葉をもらえた。少なくとも、発表者の風澤にとっては在学中最高のイベント・1年でした。

ただ、後期になって実習や国試勉強等で忙しくなり、実験自体ができなかった。

振り返り 今回（コ・メディカル形態機能学会）の参加人数は私たち発表者2名分だけだった。学生は初めての学会であり、緊張のあまり、お互いの発表の時の写真を撮ると言いながら、撮ることができなかった。支援教員の先生も発表前までは支援があったものの、発表時には座長をするなどして忙しく、撮影は難しかったので、次回からは撮影などの学生分も申請したほうがよいと思った。

APPW2025は発表者1名と撮影・補助者1名分の予算で行った。すると撮影もスムーズにできたうえ、発表も安心してできた。やはり撮影・補助者1名分が必要だと思った。

あと、次につなげるため、そしてこの活動を通して四国大学のブランドと学生の人材育成のためにも低学年の早いうちから学会に参加して、他大学の先生方や学生たちがどのように取り組んでいるのかを知る必要があると思った。

100年の歩みと共に 四国大学記念プロジェクト

概要 これまで私たちが取り組んできたマツシゲート学園祭や沖縄探究交流会をはじめとする各種イベントをこれまで以上に充実拡大させ四国大学100周年を周知する。
イベントを企画運営する中で自ら考え行動し、地域社会に貢献していきたい。

主な活動日程 2024年 7月31日、8月 1日

「沖縄探究交流会」

2日間にわたって糸満市の小中高等学校に通う学生約20名とともに探究学習の実施大学のパンフレット配布

9月18日 松茂中学校訪問 学園祭に出店する出し物の生徒会による会議に参加

9月19日 自衛隊MTG

10月 4日 喜来小学校にてAIを使った絵本づくりサポート

10月11日 午前：喜来小学校にてAIを使った絵本づくりサポート

午後：徳島県庁に本イベントの後援申請

10月13日 マツシゲート学園祭に向けた万博国際交流プロジェクト ガーナと交流しよう

10月20日 ガーナ交流プロジェクト 2回目 交流するために、文化・ゴミアート・商品開発・展示のチームに分かれて話し合い。

各チームでカカオを用いた商品開発、人形浄瑠璃現地視察、電子廃材の解体など

10月27日 ガーナ交流プロジェクト 3回目 各チームで分かれて11月2日のマツシゲート学園祭に向けての準備。

11月 1日 マツシゲート学園祭前日準備



11月 2日 マツシゲート学園祭当日
2025年 2月 7日～10日
沖縄探究交流会

- 活動結果**
1. 四国大学の教育理念の普及と認知度向上
 2. 地域社会との連携強化
 3. 学生の自主性とリーダーシップの促進
 4. STEAM教育の推進と普及
 5. 四国大学の良さをPR

以上の目的を達成するために、

①では各学校と打ち合わせを行い、マツシゲート学園祭に向けての準備を進めた。その中で松茂町立喜来小学校の特別支援の児童と一緒に絵本づくりを行い当日展示を行った。四国大学100周年記念ブースを設けることができ、100周年記念グッズを一般の方に配布することができた。

②では、夏の交流会では興味のある学生に本学についての説明を行うことができ、周知を行うことができた。冬の交流会では、実際にブースを設け参加校の学生に向けてパンフレットの配布などを行い周知を行うことができた。

振り返り 本年度のマツシゲート学園祭では、雨天によりイベント時間が短縮された。

その結果、全来場者への四国大学が100周年を迎えることを十分に周知ができなかった。

またガーナ交流ブースにおいて予定していた参加型ワークショップを一部中止せざるを得なかった。

改善点：

雨天時に備えた代替プランの準備（例：屋内スペースの確保、スケジュール調整）。

より多くのSNSを活用した事前告知。

イベント終了後のフォローアップ活動（オンライン展示やアンケート実施）。



僕らの図書館 テニトル実行企画

概要 本プロジェクトは本の面白さ・図書館の魅力は今より更に知ってもらうために活動を行うものである。具体的には①四国大学図書館での学生選書による本を展示する、②図書館と協力し読書にまつわるゲームを図書館内で行う、③図書館が人々の交流の拠点となるようなイベントの開催、④図書館の利用促進につながる取り組みやSNSでの発信、⑤「みんとしよ」である「PARKET」での学生選書の展示などである。以上のことを通じて学生の読書推進や、人と本の交流の場を増やし図書館の利用率の増加を目指す。



主な活動日程

2024年 4月 8日	日本文学科新入生歓迎オリエンテーションの実施
4月22日	四国大学附属図書館一階展示「ファッション、ハンドメイド」
6月 7日	徳島市立図書館での交流イベントの打ち合わせ
6月15日	徳島市立図書館で交流イベント実施
7月 9日	県南地域づくりキャンパス事業「ひらの図書室」 イベント打ち合わせ 1
7月16日	県南地域づくりキャンパス事業「ひらの図書室」 イベント打ち合わせ 2
7月17日	四国大学附属図書館二階での展示「〇〇に困ったときに」
7月19日	ひらの図書室イベント打ち合わせ 3
7月31日	タグリバでテニトルの活動報告パネル展示
8月 5日	県南地域づくりキャンパス事業「ひらの図書室」 イベント打ち合わせ 4
8月 9日	県南地域づくりキャンパス事業「ひらの図書室」と那賀町の訪問見学と現地での打ち合わせ
8月30日	PARKET訪問

- 9月11日 PARKETでの展示「テニトル」
- 10月13日 四国大学附属図書館一階展示「バレットジャーナル、手帳活用術」
- 10月24日 県南地域づくりキャンパス事業「ひらの図書室」 イベント打ち合わせ5
- 10月25日 PARKETでの展示「アニマルセラピー」
- 11月 5日 徳島大学でビブリアバトル観戦、県南地域づくりキャンパス事業「ひらの図書室」 イベントの宣伝
- 11月13日 県南地域づくりキャンパス事業「ひらの図書室」 イベント打ち合わせ6
- 11月19日 県南地域づくりキャンパス事業「ひらの図書室」にてテストプレイ、那賀高校を訪問してひらの図書室イベントの宣伝
- 11月23日 PARKETにてIVORY×テニトルで植物と植物をテーマにした本の展示
- 12月10日 県南地域づくりキャンパス事業「ひらの図書室」 学生テストプレイ 1
- 12月11日 県南地域づくりキャンパス事業「ひらの図書室」 学生テストプレイ 2
- 12月15日 県南地域づくりキャンパス事業「ひらの図書室」 イベント学生打ち合わせ
- 12月19日 県南地域づくりキャンパス事業「ひらの図書室」 イベント最終打ち合わせ
- 12月20日 県南地域づくりキャンパス事業「ひらの図書室」 イベント
- 2025年 2月 7日 四国大学附属図書館一階展示「時間術、コミュニケーション能力」
- 2月 8日 PARKETでの展示「旅行」
- 2月 県南地域づくりキャンパス事業の活動報告

活動結果

①四国大学附属図書館での学生選書による本の展示では、学生の目線で本を選んだことで多くの人に本を手にするきっかけを作ることが出来た。今年度の展示では特に難しいテーマにならないよう心がけ、本を手に取りやすくした



ことで読書へのハードルを下げる事が出来たと考えている。②徳島市立図書館と協力し中高生と読書にまつわるゲームを行った。そこでは中高生と交流することができ、読書に親しむことはもちろん、中高生からは想像が付きにくい大学という場所について説明するなど、交流の中で四国大学や大学生という存在について少し親しみを持ってくれたと考えている。大学生側も、徳島市立図書館と協力して計画をつくる中で一つのイベントに対する準備の仕方などを学ぶことができ、大変勉強になった。③図書館が人々の交流の拠点となるようなイベントとして、ひらの図書室と県南地域づくりキャンパス事業の一環である謎解きイベントを行った。ひらの図書室のある那賀町に関する謎解きイベントを実施したことで、地域に対して親しみを持ちたり、誇りを持ちたりした人が増えたと考えている。また、地域の活動拠点となることを目指しているひらの図書室を会場としてこのイベントを実施したことで、ひらの図書室を地域に広めることにもつながったと考えている。このイベントを企画運営する中で報告、連絡、相談の大切さや意見のすり合わせを定期的に行うこと、那賀町の魅力発信のためにSNS発信をしたり、ポスターを作成したりと多くの大切なことを学べたことに加え技能を身に着けたりすることが出来た。④図書館の利用促進につながる取り組みやSNSでの発信としてInstagramで大学図書館やPARKETやタグリバでの展示を発信したり、ひらの図書室でのイベントについて発信したりと各地で行った本の展示の発信を行った。Instagramのいいねや閲覧数などから考えて広報として機能したといえる。⑤「みんとしょ」である「PARKET」での学生選書の展示では、学内の限られた人に展示するのではなく、学外の不特定多数の人に向けて展示を行ったことで学内の展示とは違う視点で考えることが出来た。展示用POPなども振り仮名やイラストなど老若男女に伝わる展示になるよう心がけたことで新しい視点の獲得につながった。学内でも学外でも活動したことで、四国大学生から「展示を見て久しぶりに本を開いた」と言ってもらえたり、学外でも郷土資料を使ったイベントを実施したことで本を開いて「なつかしい。昔の那賀町を思い返すことが出来た」などと仰っていただけた。



振り返り

展示の反省点は、展示を入れ替える頻度にばらつきがあり定期的に変えられていなかったことである。また、Instagramの投稿も後期は展示入れ替えの度に

投稿したが、前期は投稿が出来ていない時があった。後期には投稿担当者を決めたことで改善できたので来年は最初からSNS担当者を決めて毎回投稿できるようにしたい。イベントの反省点としては報告、連絡、相談がうまく出来ていなかったことである。しかしこまめに連絡を取り合うように改善したことでうまくいくようになったのでこの反省を来年にも活かしたい。やり残したこととして、まだ展示したいテーマが残っているので来年はそれらを展示したい。またこれからも学内の活動とともに学外の活動も積極的に行っていきたいと考えている。今年の活動で関係を築いた那賀町の木のおもちゃ美術館さんから「木のおもちゃ美術館でもイベントを実施してほしい」と仰っていただけただので来年度もGPを継続させ、このイベントを実現させたい。

Growing a sense of internationality

概要 本プロジェクトは国際文化学科の学生の国際感覚をより豊かにすると共に英語を含むコミュニケーション能力の向上を狙う。また四国大学が来年創立100周年を迎えるため、今以上に海外の協定校と関係を深めることを目的としている。

主な活動日程

2024年 4月 8日	幹部で顔合わせ兼ランチミーティング
5月14日	SVSUの学生と交流会
6月 3日	イングリッシュランチ ロバート先生と英語で会話しながらご飯
7月 8日	キルギス 中央アジアアメリカン大学とZoomで交流会
8月25日	TAG-RI-BA ドットペイント イベント
11月 9日	芳藍祭 JAL×国際文化学科×DISAC
11月12日	台湾 大葉大学とZoomで交流会
12月15日	シケースリー スポーツ交流会
12月25日	ワールドプラザでクリスマスパーティー
2025年 2月 3日	郷土料理、恵方巻を作ろう！



活動結果 シケースリーさんのスポーツ交流会に参加したことをきっかけに、クリスマスパーティーにシケースリーのメンバーを招待することができたことで国際交流を行うことができた。協定校との交流としては、以前から交流があるSVSUに加え、新たにキルギスや台湾の大学とZoomで交流し、各国の文化について知るとともに、徳島について伝えることができた。来年度以降も継続する予定である。また、今年度から四国大学に勤務しているアメリカ出身の先生や彼女の友人に日本の伝統文化を教えたり、徳島の郷土料理を一緒に作り食べたりすることで、徳島のことをより好きになってもらえることができた。今期は、コロナ前のように交流あるイベントの復活をさせることができたと思う。



振り返り 計画どおりにイベントを運用することができず、紆余曲折してしまうことがあった。原因としては、前年度の反省点である前もった計画を立てることが今年もあまり実行できなかった。他には、イングリッシュランチの参加率が低く、途中で断念してしまった。ワールドプラザで実施することでイベントの認知度をあげることが改善につながると考える。また協定校との交流会を増やし、良好な関係を築くことでお互い行き来し合い直接交流できるように関係性を深められるよう努める。また、今年度の反省点が来年度以降に反映できるよう引継ぎを丁寧に行いたい。



蒲公英-たんぽぽ- ～徳島の地から新時代の書を～

概要 本プロジェクトは徳島県2名、三重県1名、大分県1名、鳥取県1名で構成された「蒲公英」の活動を中心とするものである。書道文化を世間に広げていく活動を、書道パフォーマンスを主として県内外を問わず行っていく。この活動によって地域貢献や自分達の人間的な成長を目指していく。

主な活動日程 2024年 7月13日 うみがめまつりが開かれ日和佐公民館内にて50名ほどの人々の前で町に関連するうみがめ、SDGsがテーマの書道パフォーマンスをそれぞれ一枚ずつ3×5mの紙に披露。

8月13日 道の駅くるくるなるとにて夏祭りと呼ばれるイベント内で壁面にくるくるなるとをテーマとした書道パフォーマンスを2×4mの紙に行い、計5枚のパネルに1字ずつ5書体（楷、行、草、篆、隸）に分け書道パフォーマンスを1×2mの紙に行った。2部講演で、午前中に壁面でのパフォーマンスをして、午後5枚のパネルにパフォーマンスを行った。また8月10日には展示用としてくるくるなるとのイベントを書きイベント会場の壁面に展示した。

8月15日 道の駅くるくるなるとにて色紙、うちわ、扇子にその場で絵や好きな言葉などを即興書きをした。猛暑の中により人数としては10名以下となったが、多くの人々に見ていただくことができた。

9月21日 愛媛県四国中央市の四国中央市市民文化ホールにて開かれた「かわしん感謝祭」で書道パフォーマンスを行った。松山大学とのコラボで「感謝」「ふるさと」をテーマにお互いの大学が書道パフォーマンスを行い、来てくださっていた130名程の観客を盛り上げることに成功した。蒲公英の活動が始まってから初めての県外での活動となったうえ、普段ほかの大学の行うパフォーマンスを見る機会がないので非常に貴重な体験であったと感じている。また同時に、四国中央市発足20周年コラボ企画である「ミツマタの花」という「書」と「かみ」のワークショップにも参加しさせていただき、「ミツマタの花」と書いた書を切り抜いた紙が影絵として展示された。

10月 5日 鴨島公民館にて吉野川市市制20周年記念の式典が開かれ、式典に参加している人やパフォーマンスを見に来た300名ほどの前で吉野川市をイメージした書道パフォーマンスをプロジェクションマッピングとコラボをして3×5mの紙に行った。四国放送にも取り上げていただけた。動画は四国大学徳島光・アート教育事業のYouTubeの方にアップロードされている。→<https://youtu.be/CHLROla0fU>

11月13日 阿南市立宝田小学校にて全校生徒約149名の前で書道パフォーマンスを行った。宝田小学校の校訓と人権学習の歌を書き、装飾にはひまわりを描いた。パフォーマンス後に行った質疑応答では、たくさんの児童に質問され、大いに盛り上がった。生徒たちの笑顔を見ることができ、のちに全校生徒一人一人から感謝のお手紙をいただいた。

12月 6日 阿波観光ホテルにて、徳島県内の社長が集まる200名ほどの宴会で地域創生をテーマにブラックライトでの書道パフォーマンスとVRを使ったVR書道での書道パフォーマンスを行った。ブラックライトでは蛍光塗料を使い、「地域創生」と書いた。VRでは徳島の観光地を背景に徳島の魅力が伝わるようなパフォーマンスを行い、歓声が上がると大変喜んでいただけた。

12月10日 阿南市立宝田小学校にて今年度中に卒業する6年生28名の卒業プロジェクトの一環である卒業制作に携わった。1m×3mの紙を4枚用意し、1グループ7名の4チームに分かれ、28名の児童がそれぞれ好きな漢字や言葉と自分の手形を押す作品でその作品制作のための指導を中心に児童と触れ合った。児童とふれあい、指導することのできる機会でも、緊張しつつも、各々が満足できるいい思い出となるように尽力した。

2025年 1月 4日 道の駅くるくるなるとにて新春大感謝祭と呼ばれるイベント内にくるくるなるとと新春をテーマとした書道パフォーマンスを2m×4mの紙に行い、計5枚のパネルに新春をイメージした書道パフォーマンスを1m×2mの紙に行った。午前中にパネルの作品を書いて、午後壁面の作品を書いた。道行く多くの方に足を止めていただき、楽しんでいただけた。また、1月1日には新春をイメージとした展示用の作品を壁面に貼り付けた。

1月14日 阿南市立宝田小学校にて今年度中に卒業する6年生28名の卒業プロジェクトである書道パフォーマンスのために6年生への指導に赴いた。書道パフォーマンス経験のない



児童たちのため、一つ一つ児童たちと向き合いながら指導を行った。児童の分からないことや気になることを中心に聞いて回り、楽しく触れ合った。

1月17日 阿南市立宝田小学校にて今年度中に卒業する6年生28名の卒業プロジェクトである書道パフォーマンスを見に赴いた。卒業生の保護者にも来校していただき全校生徒の前で緊張しつつも自分の最大限の表現を紙に体現していた。パフォーマンス内では装飾にコスモスを描き、一文字一文字を28名一人一人が担当した。また、ダンスを取り入れ、観客が楽しめるような工夫がされていた。感想発表の時間には多くの在校生が発表をしており、おおいに盛り上がっていた。

1月24日 徳島インディゴソックスの掲げたスローガン「Strike the heart～唯一無二の存在へ～」と書き、装飾にインディー君、ひび割れと野球ボールを描いた展示品を作製した。作品完成に向け様々なやり取りを行いつつ、より良いものとなるように尽力した。

1月26日 徳島インディゴソックス2025年新入団選手発表記者会見にて激励の言葉を述べるために赴いた。先日書いて提出したスローガンが記者会見会場の上に飾られており、多くの方にその作品を見ていただけることに成功した。動画は徳島インディゴソックス公式のYouTubeに上がっている。

→<https://www.youtube.com/watch?v=z0nKL2agjhl&t=4s>

活動結果

7月13日に日和佐で開催されたうみがめまつりでのパフォーマンスは雨の恐れがあることから屋内でのパフォーマンスとなったが、大人から子供までが興味を示していただき最後まで見ていただくことができた。また海外の方にも最前列で見ていただけた。8月13日のくるくるなるとでのパフォーマンスでは猛暑の中県内外を問わず様々な方に見ていただけた。二部講演となっていた上、1部と2部とで時間が大幅に空いていたがそれでも多くの方に見ていただけており、2部ともお越しになられた方もおられた。後半に色紙販売の即興書きもイラストも交えるなどしながら行ったが、大勢の方に来ていただけた上、非常に喜んでいただけた。9月21日の四国中央市市民文化ホールでのパフォーマンスでは、活動初の県外活動となった上、ほかの大学とのコラボというまたとないような貴重な体験をさせていただくと実感した。会場では書道パフォーマンスを見に来てくださった人から、興味本位で来てくださった人まで様々な人々に見ていただくことができた。10月5日の吉野川市市制20周年記念の式典でのパフォーマンスは式典目的でなく、私たちのパフォーマンスのために来たという方が多く見られ、パフォーマンスの魅力を再認識した。11月13日からの合計4度にわたる阿南市立宝田小学校での活動では、書道パフォーマンスを中心に児童からの注目や関心を集めることができたと感じている。自分たちのパフォーマンスの後日には全校の生徒からの感謝の手紙が届いた。2度目では6年生の卒業作品として、4班に分かれて自分の好きな文字と手形を添えた思い出となる作品を作り上げるために指導を行った。また、3度目には蒲公英メンバー2人が小学校に赴き、4m×5mの紙に書道パフォーマンスを行う6年生のために事前指導を行った。4度目となった最終日には、全校生徒と保護者の前で披露する6年生の姿を横で見守った。3度目からの成長に驚きながらも、6年生たちの頑張りにも心動かされた。1月4日の道の駅くるくるなるとでのパフォーマンスでは、新春の大感謝祭と称し、書道パフォーマンスを行った。こちら前回のくるくるなるとでのイベント同様、壁面作品とパネル作品の2部講演となっており、今年の干支である巳を書き、新春をテーマとした作品を展示作品を併せて3作品制作した。1月24日と26日には徳島インディゴソックスの為にスローガンを書き、記者会見に出席したたくさんの方に作品を見ていただく機会となった。



振り返り

今までの書道パフォーマンスの振り返りとしては、次の開催期間が短いこともあり、どのパフォーマンスにおいても練習量が足りず、納得のいくパフォーマンスができなかったことがあげられる。日程を逆算して明確な計画を立て、万全な体制でパフォーマンスをすることを心がけていきたいと思った。明確な計画性を持ち、練習の中ではもちろん本番後にも文字の字形や構成など、課題点を把握し改善していくことで、次のパフォーマンスへと繋げることが必要であったと考える。また、問題点に関してあげられるものは支援金の使い方である。初めてのGPとしての活動に慣れない部分が多くあり、先を見越した支出ができていなかったために、困難が多く改善していく必要があると実

感じた。今後続けていく上でもう少し慎重に使えるよう行動したいと思う。書道パフォーマンスの本番の動きに関しても、メンバーの動きを統一させ、違和感をなくせるよう日々努力を積み重ね、その場の客層や曲調に合わせて動けるように改善したい。パフォーマンスを見た観客に元気や勇気を与えられるようなパフォーマンスを見せれるよう全力を尽くしたい。これから更に書道を盛り上げていく立場として、幅広い活動をしていくとともに100周年を見据えたデジタルでの新たな書の可能性の一つであるVR書道を用いたパフォーマンスを積極的に行うなど様々な書道を発信していきたいと思う。発信していく方法としてSNSに日頃の練習風景を載せることや、活動報告を随時発信していくことを怠らないようにしていく。

しこくカフェ(オレンジカフェ)

概要 本プロジェクトは看護学部の学生が主体となり、認知症カフェ(オレンジカフェ)を開催することで地域貢献をすることを目的とする。認知症カフェとは、認知症の人、家族、医療職、介護職、地域の人が誰でも気軽に参加でき公民館や地域のコミュニティーセンターなどの一室を利用して開かれる場(憩いの場)であり、数か月に1回、自由なコミュニケーションや介護相談、アクティビティをすることで認知症について知る・学ぶ・考えることができる。



主な活動日程 2024年 9月21日 徳島市内のおうちカフェ「はなれ」という場所をお借りして、運営者(学生6名)と支援教員、おうちカフェの方で参加者16名を迎えて行った。今回は、支援教員による認知症についての講義を30分程行っていただき、その後に学生によるコグニ体操、音楽療法、折り紙を行った。来てくれた人から好きな飲み物を選んでいただき提供して一息ついてもらってから始めた。まず、コグニ体操ではグーチョキパーの動きをだんだんと早く行っていく体操と足踏みに手拍子を加えた体操を行った。音楽療法では、高齢者の方にも馴染みがありそうな「ふるさと」・「赤とんぼ」・「めだかの学校」・「幸せなら手をたたこう」・「夕焼け小焼け」・「エーデルワイス」を選択し、ピアノ伴奏に合わせてみんなで歌った。次に、茜庵さんに特別に作っていただいた和菓子を味わいながら折り紙を行った。折り紙は本や季節に関するものの折り方を印刷したものをしながら一緒に折り紙を作成した。



12月21日 四国大学の交流プラザで行った。活動内容は9月21日に行ったときとほとんど一緒ではあるが、少し内容を変更した。前回はピアノ伴奏に合わせての音楽療法を行ったが、四国大学の交流プラザではピアノがないためYouTubeなどに合わせて「マツケンサンバ」を行った。また、ウクレレを演奏できる方に来てもらい伴奏をお願いし、クリスマスが近いのでクリスマスっぽい歌や冬を感じることが出来る音楽療法にしたいと考え「クリスマスソング」「あわてんぼうのサンタクロース」を、昔を思い出してもらおうと思い「ふるさと」をみんなで歌った。今回は、歌をメインにしたため、コグニ体操は前回行ったものから厳選して行った。和菓子は冬の季節に合わせた物を頼み、すべての内容から季節を感じられるように企画した。お客さんの反応をみるとニコニコと笑顔の方ばかりで大成功だったと考える。

活動結果 地域の人を招き認知症カフェというものがあるということを知ってもらうことができ、参加していただいた方には認知症がどのような病気であるのか、どのような治療法があるのか、また、認知症になりにくくするためにはどのような予防策があるのかなど認知症について沢山知ってもらうことができたため目的は達成することができた。



振り返り 役割分担として、飲み物を提供する学生1名と注文を伺う学生1名と



分担していたが注文が多く、どの参加者にどの飲み物を渡すのかわからなくなることが多かった。その為、参加者自身に注文を書いてもらったり提供する学生の人数を多くする必要があったと考えた。コグニ体操を行う際に次の体操に移るときの繋ぎがもたつてしまい参加者を待たせてしまった。もう少し入念に出し物の流れを確認するべきだと考えた。しかし、「楽しかった」「集まりが出来て嬉しかった」などの声を参加者の方から言ってもらい、参加者の皆さんに笑顔で帰っていただけたため、カフェは全体的に大成功であったと考えた。このカフェは学生GPで企画したものであるため、今後続けることはないけれど、このようなカフェがあることは周りの人に周知できたらと考えている。

なると探検隊～世界にはなて魅力発信～

概要 円安による影響で海外からの観光客が増加している。その影響で、徳島に訪れる観光客も増えつつある。この伝統のある自然豊かな徳島の魅力をたくさんの人に知ってほしいと考え、このプロジェクトを計画した。日本の伝統を好む外国人も多いことから様々な鳴門の伝統を自ら体験することで、インターネットでは得られないことを体験できると考えたのがきっかけである。徳島では人口減少・若者離れが深刻化している。若者離れに我々も微力ながら貢献できることもあるのではないかと考え、本プロジェクトの考案に至った。



今回のプロジェクトは、徳島県鳴門市の特産品や自然・伝統を見るだけでなく、実際に肌で感じ体験することで地元の良さを知る。体験したことをSNS (instagram) を通じて多くの人に発信し徳島県の魅力を伝える。また、県外からの観光客の増加や地域活性化につなげていくことを目的としている。

- 主な活動日程**
- 2024年 5月13日 企画書の作成・提出。
 - 7月20日 プロジェクトの活動内容、場所の確認を行う。
 - 7月21日 大西陶器さんに大谷焼体験の予約、撮影許可の確認を行う。
 - 7月31日 プロジェクト実施前最終確認。
 - 8月 1日 プロジェクト実施
 - くるくるなるとで昼食。徳島の魚介を使った海鮮丼を注文し、旬の食材を堪能。
 - 大西陶器で大谷焼体験を行った。伝統工芸品作りを体験した。
 - 鳴門市ドイツ館に伺い、徳島の歴史と触れ合った。
 - 大麻比古神社へ向かった。参拝し、おみくじを引く。
 - 8月23日 今後のプロジェクト内容の確認。
 - 10月19日 大西陶器に完成した大谷焼を取りに伺う。
 - 10月22日 中間報告書提出。
 - 11月15日 SNS投稿用の写真の選択、動画編集を行う。
 - 11月30日 経営情報学科学生スタッフのインスタグラムで写真・動画の投稿を行う。
 - 2025年 1月21日 プロジェクト全体の振り返りを行う。
 - 2月 6日 活動報告書の提出。



活動結果 このGPの企画では鳴門市を訪れた。まず、「くるくるなると」へ向かい、地元の食材を使った海鮮丼やスイーツをいただいた。次に「大西陶器」に伺い、大谷焼き体験を行った。職人の指導のもと、実際に陶器作りを体験し徳島の伝統文化に触れることができた。「鳴門市ドイツ館」では、板東捕虜収容所の歴史や徳島とドイツの関わりを知ることができた。最後に向かったのは「大麻比古神社」である。「大麻比古神社」では、参拝をした後、おみくじやお守りを購入した。このように徳島の歴史や伝統文化に触れ合うことにより、私たちの普段では味わうこ



とのできない貴重な体験を行うことができた。そして、この活動を通して徳島の歴史や伝統文化への理解を深めることに繋がった。SNS (Instagram) での投稿では、写真や動画、文章を通じて、徳島の魅力を知ってもらうことができた。また、フォロワー以外の方からのコンタクトもあり、県内外問わず様々な地域で活動を見てもらうことができた。

振り返り この活動では、「Instagram」を利用して写真や動画で情報発信を行うことができた。その中の反省点として、「Instagram」だけでなく「X (旧Twitter)」「TikTok」など、その他SNSの活用が考えられる。様々なSNSを利用することで、より沢山の人に情報を伝えられるので、この活動を知ってもらえる機会を増やせたのではないだろうか。また、海外の人に知ってもらうために英語字幕に力を入れるべきだという反省点もあげられた。短い英語字幕だけでなく長文で動画や写真の投稿を行うことで、日本国内だけでなく、様々な国や地域の人に徳島の魅力を伝えられたのではないか。また今回は鳴門市を拠点にして活動していたが、その他の地域にも足を運ぶことで地域の特色を知ることができたと考えられる。

Tina

概要 日本語教員養成課程で学んだ知識、書道文化学科で学んだ専門知識を生かして、在留外国人の為に「地域における日本語教育への取り組み」への活動、日本の文化や風習を伝え、多文化共生社会への促進を目的とする。



主な活動日程 2024年10月 1日 書道教室開催
四国大学に在学している留学生を対象に書道教室を行い、日本文化である書道に触れてもらった。参加してもらった学生には色紙に書いて持って帰れるように形に残した。

2025年 2月 2日 いちご狩りと陶芸体験
いちご狩りと陶芸体験を鳴門で行った。留学生にとって楽しめるようにいちご狩りを行い、徳島の伝統工芸品である大谷焼の陶芸体験を行った。



活動結果 書道教室では、筆を初めて持つ学生が多かったため、持ち方から教えることが大変だと感じた。日本人に教えるのと違い、日本語で伝えるのが難しく教えるのに時間がかかった。留学生にどうしたら伝わるか、授業で学んだやさしい日本語で教えることを意識して活動できた。書道教員を目指している私達の勉強にもなった。

留学生と関わることで日本語の難しさ、初心者への書道教育の大変さがよくわかった。

いちご狩り、陶芸体験では徳島でしかできないことができて、留学生やTinaのメンバーも楽しく活動できた。陶芸体験では、徳島の伝統工芸品にも触れることで、徳島の文化も知ることができた。

振り返り メンバーの多くが4年生だったり、主に活動するメンバーが少なく積極的な活動ができなかった。最初に立てた計画も思いどおりに進めることができず、留学生との活動がとても少なくなった。

改善点は、毎月書道教室を開催することで、より多くの留学生とも関わることができ、書道の上達にも継と思った。シケースリーさんとも協力すればより多くの活動ができるのではないかと考えた。



令和6年度学生GP活動報告会

各プロジェクトの活動成果を、中間報告として芳藍祭期間中にパネル展示し、多くの来場者に披露しました。また、令和7年3月7日(金)には、各プロジェクトの代表学生がプレゼンテーション形式で活動報告会をオンラインにて行い、教職員・学生に向けその成果を披露しました。